

# 「種蒔き！！」

～よい種をよい地へ！～

ガラテヤ6：1～10

## ■ 心の中の悪いデータの古いアルバムを整理しましょう

私たちはよく人のことを決めつけてしまいます。人間の記憶は良いことがあっても悪いことを連想してしまいます。悪いデータしか残ってないからです。悪魔は悪い方へ考えるように囁きかけます。皆さんは写真を撮る時いい顔をしていますか。変な顔に写っていたら消去すると思います。その悪いデータの古いアルバムを整理しなければなりません。社長は社長の顔、ヤンキーはヤンキー、政治家は政治家の顔。だんだんそのようになっていきます。いつも考えていることが顔にでてくるからです。あなたの顔が自分を宣伝しているといえます。少しのことでも怒ってしまう人と笑っている人この差は为什么呢。

良い種があっても過去の悪い記憶で根付かなくなってしまう。よい地により種を蒔けば刈り取ることができます。)現代ではスーパーに行けば簡単に良いものが手に入ります。この結果、私達は種蒔きの意味を忘れてしまいました。(創世記1：11-12、28-30)神様は植物には種をつくりましたが、人間は自己中心のために、種のない種類を作ってしまった。科学肥料で育て、土地は痩せ、虫が来なくなりました。これによって食物連鎖を壊しました。私達人間も、実を結べなくなりました。よい思い出がなくなったからです。イエス様はこの悪い心(地)を癒すために十字架にかかられました。それなのに簡単に忘れてしまいます。創世記のエサウとヤコブの争いのように、一時の感情で、長子の権利を渡してしまったことから今に続き、イスラムの過激派集団を生み出しています。悪の種を蒔き続ければ、次の子孫へと受け継ぐこととなります。悪い種ではなく、あきらめず、良い種を蒔きたいと願い続けましょう。

## ■ 良い種と良い地とは？

道ばた＝人に踏みつけられている。この世の価値観がある心です。古いアルバムがあればあるほど固い道です。岩地＝試練にあうと諦めてしまう心です。伝道者の書1：1、4には無駄なようなことでも何か目的があるなら意味がある書かれています。あなたには、生まれてきた意味があるのですから。

## ■ 種を蒔き続ける。不安をとる

人生の種蒔きをやめてはいけません。歴史上、名を残した人々もあきらめず、やり続けました。私はどうせできない。などと思わないでください。不安は神様の前のあきらめです。やるべきことをやり抜き、明日の心配はやめましょう。

## ■ 優先順位を判断する

ある総理大臣は、毎日曜日は教会へ、いきました。それが大統領就任の条件でした。一国の大統領ともなれば多忙を極めることになります。その中で、心が干やがって固い地になってしまわないようにするためでした。礼拝は過ぎる一週間の労苦をおいて、潤った心で新しい一週間を迎えるためのものです。”ハレルヤダ！”とは、賛美できない時に体で賛美して、魂を従わせる言葉です。ですから、いつでも神様を賛美し、感謝できるのです。自分の人生を間違った目的に使わないでください。怒るためではなく、正しく人を導くためによい地になりましょう。そして、礼拝で聞いたことを、まずは交わりを通して実践しましょう。人生の十分の一を種蒔きに使えば必ず神様は祝福して下さいます。

(要約者：澤口 明子)